

微粒化樹脂が素材の深部まで



浸透&強化!



強浸透性水性シーラー

下地への密着性・耐久性がさらにUP!

カラーベスト・スレート瓦に

コンクリート・モルタルの壁に

ベランダ・ガレージに

※写真はイメージです。



強浸透性 カチオンシーラー

水性シーラー

カチオン
(プラスイオン)

上塗り塗料

+

本品

下地

アニオン
(マイナスイオン)

コンクリートなどの下地は、通常マイナスの電荷を帯びています。

そこにプラスの電荷をもつカチオン樹脂を塗装すると、

マイナスとプラス(下地とカチオン樹脂)が引き合い緻密に成膜するため密着力が高まります。

また、従来の水性シーラーより粒子径を微粒化(一般的なアクリル樹脂の約1/4)しているので、奥深くまで浸透し、下地を補強します。

商品名

強浸透性水性シーラー

規格

1L・3L・7L・14L

用途

- スレート瓦、セメント瓦、コンクリート床、ブロック塀、モルタル壁などへの塗装時の下塗り
- 塗り替え時の旧塗膜面への下塗り
- ※頻繁に水がかかるところ、いつも湿っているところ、アスファルト面、劣化の激しい下地には使用できません。
- ※劣化が激しく、手で触ってボロボロと砂のように取れるような場合には十分な効果が得られませんのでアサヒペン油性シーラーを使用して下さい。
- ※本品は下塗り用塗料です。必ず上塗りをして下さい。
- ※上塗りには水性塗料を使用して下さい。
- ※モニエル瓦には使用できません。

特長

- 浸透力に優れており、劣化した下地に奥深く浸透して下地を補強します。
- カチオン樹脂により下地と上塗り塗料の密着力を高めます。
- たばこのヤニ、油シミ等を抑える効果があります。
- 防かび効果があります。
- 水性なので取り扱いや後始末が簡単です。

防カビ剤配合

(社)日本塗料工業会登録

登録番号	A02133
ホルムアルデヒド 放散等級	F☆☆☆☆
問合せ先	http://www.toryo.or.jp
建築基準法で定められたホルムアルデヒドの放散量が最も少ない区分で、居室内に無制限に塗装できます。	

塗り回数

1回塗り

色名

透明(クリア)

乾燥時間

夏期/30分~1時間
冬期/2~3時間

上塗りの目安

夏期/2時間以上
冬期/6時間以上

用具の手入れ

塗料が乾かないうちに、水が濁って洗ってください。



無鉛塗料

鉛・クロム化合物は使用していません。

ASAHI PEN CORP.

強浸透性水性シーラー JANコード一覧表

	1L	3L	7L	14L
透明(クリア)	4970925-458162	4970925-458179	4970925-458186	4970925-458193
商品サイズ 横幅×奥行き×高さ(mm)	115×60×193	185×98×245	240×240×180	240×240×350
内箱入数	12	4	1	1
外箱入数	12	4	1	1
標準塗り面積 (1回塗り)	吸い込みの少ない箇所	24~30㎡	56~70㎡	112~140㎡
	吸い込みの多い箇所	15~18㎡	35~42㎡	70~84㎡

塗装方法

- ① はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどを使用して十分に除去します。
- ② 塗る面のゴミや汚れを取り、カビはカビトリ剤で、油分・ワックスはペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
- ③ 塗装面が濡れている場合や湿っている場合は、正常な塗膜を形成しませんので十分に乾燥させます。
- ④ 右の下地処理の注意にしたがって下地処理を行います。
- ⑤ 必要量をローラートレイなどのさびない容器に移します。
- ⑥ 本品はうすめずにそのまま塗ります。
- ⑦ コーナーや塗りにくいところは先にすじかいバケで塗ります。
- ⑧ 平らで面積の広いところはローラーバケ、コテバケ、オートローラーなどを使うと、楽に塗ることができます。
- ⑨ 吸い込みの多いところは、しばらく待って表面が乾いてから再度塗り重ねます。
- ⑩ 塗膜が厚くならないように(乳白色にならず透明になるように)塗装します。
- ⑪ マスキングテープなどの養生は塗料が手に付かなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、水か湯で洗って下さい。

保管上の注意

- ① 幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲、誤食、いたずらをしないように注意して下さい。
- ② 残った塗料は、フタをし、直射日光や-5℃以下の場所を避けて保存して下さい。
- ③ 残った塗料は、容器がさびやすいところを避けて保存して下さい。

救急処置

- 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。

取扱い上の注意

- ① 表示の用途以外には使用しないで下さい。
- ② 目に入ったり、皮膚に付着したりしないよう、また誤飲しないよう注意して取り扱って下さい。
- ③ 塗装中、乾燥中とも十分に換気し、塗料の臭いがないようになるまでは、ときどき換気をして下さい。
- ④ 塗料がついても支障がない服装で作業して下さい。
- ⑤ 屋根に塗る場合は、降りるところが最後になるように、順序を考えて塗って下さい。また、転落事故のないように十分に注意して下さい。
- ⑥ 塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に行ってください。
- ⑦ 塗るとき及び塗った塗料が乾くまでの間も、5℃以下にならないような時間に塗って下さい。
- ⑧ 風の強い日や乾くまでに結露する時間帯には塗装しないで下さい。
- ⑨ 上塗りは、夏期2週間以上、冬期は6週間以上乾かしてから塗って下さい。
- ⑩ あらかじめ目立たない部分で試し塗りをして、乾燥性・下地への影響・密着性などを確かめてから塗装して下さい。
- ⑪ 塗り面積・乾燥時間は、素材・塗り方・気象条件などにより異なります。特に塗り面積は、表面状態や吸い込みの違いにより大きく異なります。
- ⑫ 容器から取り出して残った塗料は元の容器に戻さないで下さい。
- ⑬ 容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。
- ⑭ やむを得ず塗料を捨てる場合は、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。

下地処理の注意

- ① つるつるした面は、サンドペーパー(#200~#300程度)で表面を荒らしてから塗って下さい。
- ② 鉄やくぎなどの鉄部には十分にサビを落とし、あらかじめサビドメ塗料を下塗りして下さい。
- ③ 新しいコンクリートやモルタルに塗る場合は、施工後3週間以上経ってから塗って下さい。
- ④ 瓦屋根やモルタル壁などで劣化が激しく表面がポロポロと取れるような場合は、本品の代わりにアサヒベン油性シーラーを使用して下さい。
- ⑤ 水がはじく箇所には塗装できません。
- ⑥ 吸い込みが少なく、ハジキが生じる塗装面には適しません。

Q&A

Q1	どのような仕組みでカチオン樹脂が下地との密着力を高めるのですか？	A1	スレートなどの下地は通常マイナスの電荷を帯びています。そこにプラスの電荷をもつカチオン樹脂を塗装すると、マイナスとプラス(下地とカチオン樹脂)が引き合い緻密に成膜するため密着力が高まります。	Q6	吸い込みの多いところは、しばらく待って表面が乾いてから再度塗り重ねますとありますが、完全に乾く前に塗り重ねることはできますか？	A6	できます。ただ、吸い込みの多いところは、表面にあまり塗料が残らないためしばらくすると乾きます。従って、表面が乾かない場合は、十分な量の塗料がすでに塗れているため塗り重ねる必要はありません。
Q2	従来の「水性シーラー」に比べて「強浸透性水性シーラー」はなぜ浸透力が優れているのですか？	A2	「強浸透性水性シーラー」は従来の「水性シーラー」に比べてエマルジョン樹脂の粒子径が1/4程度と細かいので、多孔質な下地の奥深くまで浸透します。	Q7	塗膜が厚くならないように塗装するのは何故ですか？	A7	ひび割れたりする可能性があり、その上に上塗りするときに1回に仕上がらないからです。
Q3	タバコのヤニが付着したビニルカベ紙のヤニ止めシーラーとして使用できますか？	A3	粘着を生じるため、ビニルカベ紙に使用することはできません。「水性ヤニアクどめシーラー」をお奨めします。	Q8	「水性強力コンクリート床用」や「水性ガレージカラー」の下塗りとして使用できますか？	A8	使用できます。ただし、下地の劣化が激しくコンクリート表面がガムテープで剥がれるような場合や浸透しない下地には適しません。
Q4	同じカチオン系の「水性ヤニアクどめシーラー」とどのように違うのでしょうか？	A4	「水性ヤニアクどめシーラー」にはカチオン樹脂にヤニやアクをとめる添加剤をさらに配合し効果を高めています。さらに色が白いため淡彩色の上塗りの発色がよくなります。	Q9	塗装する際さびない容器に移すとありますが、通常のブリキ缶を使用すると、どのようなことになるのですか？	A9	何もコーティングしていないブリキ缶などの金属缶は、プラスの電荷の影響で短時間でサビてしまいます。
Q5	浴室の壁に使用できますか？	A5	コンクリート壁やモルタル壁、既塗表面(塩系塗膜は不可)には使用できますが、FRPなどの水をはじく箇所、隅などの水滴の溜まる箇所には使用できません。	Q10	モニエル瓦には何故使用できないのですか？	A10	モニエル瓦はセメントを主原料とした瓦ですが、半乾式押し出し成型で製造しているため、焼成加工している瓦より密な材質ではありません。そのため、劣化すると表面だけでなく中の方まで粉末に近い状態になり、密着不良を起こすからです。

株式会社 **アサヒペン**

大阪本社 〒538-8666
東京本社 〒135-0003

大阪市鶴見区鶴見4-1-12 電話06-6930-5001
東京都江東区猿江2-3-16 電話03-3846-6111

札幌支店 〒003-0030 札幌市白石区流通センター4-2-5 電話 011-863-3288
仙台支店 〒981-3112 宮城県仙台市泉区八乙女4-6-6 電話 022-218-5880
関東支店 〒366-0801 埼玉県深谷市上野台1450-26 電話 048-571-4488
東京支店 〒135-0003 東京都江東区猿江2-3-16 電話 03-3846-6112

名古屋支店 〒453-0855 名古屋市中村区烏森町4-19 電話 052-485-3821
大阪支店 〒538-8666 大阪市鶴見区鶴見4-1-12 電話 06-6930-5008
広島支店 〒735-0021 広島県安芸郡府中町大須4-1-58 電話 082-282-0965
九州支店 〒811-3136 福岡県古賀市糸ヶ浦2-3 電話 092-942-5050

お問い合わせ先

アサヒペンお客様相談室

TEL 東京03-3846-9545・大阪06-6934-0300
受付は、土・日・祝日・年末年始・夏期休暇を除く午前9時~午後5時まで。

ホームページアドレス <http://www.asahipen.jp>